東　輝

みどり市立大間々東中学校
学　校　通　信
令和５年３月１３日　第２５号

ご卒業おめでとうございます

本日、みどり市教育委員会、みどり市議会、PTA本部役員の皆様のご臨席の下、第39回卒業式を終えることができました。今年度も感染症の影響があり、保護者の皆様の入場制限や在校生のリモート参加など、縮小実施とさせていただいたこともありますので、卒業生に向けた最後の餞の言葉（式辞）の一部を、改めて以下に掲載いたします。
保護者の皆様、家庭・地域の皆様の3年間の温かいご支援に改めまして心より感謝申し上げます。

中学校の全課程を修了し、今ここに卒業証書を手にした84名の皆さん、ご卒業、おめでとうございます。
本日、巣立ちゆく皆さんは、この３年間、一人一人が様々な想いを抱きながら過ごしてきたと思います。
コロナ禍に翻弄されながらも、何が大切なのか、どうすれば、もっと人として成長できるのか、試行錯誤を繰り返し、時に失敗し、時に自分を励ましながら、この３年間を過ごしてきたと思います。
それは同時に「幸せについて考えていた」ということではないかと思います。

「三つの幸せ」の話を聞いたことがあるでしょうか。
一つは「もらう幸せ」。
これまでの１５年間、あなたの親御さんや家族の方は、あなたのために数え切れないほど、多くのものを与えてくれました。いつもあなたのことを考え、そして、自分よりもあなたのことを優先してくれたことがたくさんあったと思います。
また、どうしたらいいのかを一緒に考えてくれた友達・先生方という存在もありました。
あなたのために、どれだけの人がどれだけのものを与えてくれたのか、義務教育を終える今日という日、そんなことにも思いを馳せてほしいと思います。
感謝の気持ちは人を幸せにします。
二つ目は「できるようになる幸せ」。
あなたは生まれた時、寝返りもできませんでした。目の前のものに手を伸ばしても届きませんでした。でも、一人で歩けるようになり、そして、一人で目的の場所に辿り着けるようになりました。言葉で自分の気持ちを伝えることができるようになり、道具を上手く使えるようになりました。苦しいってこんな気持ちなんだ、と知った日。人の痛みがわかるようになった日。道の辺に咲いている花を見て、素直に美しいと思える自分を見付けた日があったかもしれません。
時に辛い思いをしながら、気が付けば、あなたは色々なことができる、という幸せを手に入れてきました。
もう一つは「与える幸せ」。
人は、誰かの役に立つことに喜びを感じる、という心を持っています。困っている人、苦しんでいる人を見た時に、何とかしてその人の力になってあげたい、という気持ちが湧き上がります。人の幸せを自分の幸せと感じることができる。それが人間のもっている最も尊い心の一つではないかと思います。
自分の幸せだけでなく、みんなが幸せになれる。皆さんもそんな時代を創っていく一員となり、力となってくれることを願っています。
卒業生の皆さん、いよいよ義務教育という時代が幕を閉じようとしています。
これから先の人生をどのように生きていきたいのか、最後に決めるのは自分自身です。
「自律」「自分の命令者は自分」。皆さんにはそんな言葉で伝えてきました。

自分のため、社会に貢献するために、本当に自分が在りたい姿はどんな姿なのか。「生きる」、ではなく「よりよく生きる」とはどういうことなのか、自分の頭で考え、判断し、挑戦を続ける人でいてほしいと思います。
「先が見えない不安」「押しつぶされそうになるけれど」。皆さんが最後に歌う「虹色の未来」にもそんな歌詞が出てきます。これから先、そんな気持ちになる時があるとしても、未来への希望を持ち続けてほしいと思います。

人を動かすのは、「立ち止まっている場合じゃない」「進もう」という未来への希望です。
皆さんの未来が希望に満ち溢れ、美しいものを素直に美しいと感じることができる瞬間、心がときめく瞬間、そして、たくさんの豊かな時間が待っていることを願います。